

わが

島全体が観光資源。 人が集う島づくりを目指す

佐渡は日本の縮図

佐渡市は、日本海の沖合約40kmに位置する日本最大の離島です。島の沖合の海流の影響から、本



世界農業遺産 (GIAHS) に認定された佐渡の棚田

土に比べ温暖で降雪量も少なく、島内には寒暖両系のさまざまな植物が自生しています。海産物もとより、米や果樹など多種多様な農産物をはじめ、食材にも恵まれています。古くは北前船寄港地として、江戸時代には佐渡金銀山により、幕府直轄の天領として栄え、町人・貴族・武家などの文化や風習が交じり合った独特な文化が形成されたことから、「佐渡は日本の縮図」といわれています。佐渡の主要な産業としては、まず農業があります。その中心となっており、島の中央部に位置する広大な平野部や棚田を活用した米作りは、天然記念物のトキと共生するための生物多様性を追求しており、日本で初めて世界農業遺産 (GIAHS) に認定されまし



世界文化遺産登録を目指す佐渡金銀山 (道遊 (どうゆう) の割戸 (わりと))

た。また、おけさ柿をはじめとする果樹栽培も盛んに行われています。定置網漁やさし網漁を中心とする沿岸漁業も盛んで、イカやブリをはじめ1年を通して豊富な魚種が獲れます。観光への依存度も高く、世界文

化遺産の登録を目指している佐渡金銀山を生んだ島の地形や成り立ちはジオパークに認定されています。また、能楽も盛んで全国の3分の1に当たる35の能舞台が現存しています。さらには鬼太鼓をはじめ独特の伝承芸能も多く、多くの方々が、佐渡ならではの歴史・文化・風土に魅力を感じてくれています。近年は、ブームも相まって、佐渡に自生する多くの山野草など、雄大な島の自然を楽しもうとするトレッキング客も増えていきます。

多様化する観光ニーズに 応えるために

ここ最近の佐渡市の観光客数は年間50万人余りで推移しており、ピーク時と比べると半減していますが、これは団体観光客の激減が大きな要因で、現在では佐渡を訪れる約8割が個人型観光となっています。

個人型の比率が高まるほどに、当然、観光客の皆さんが求めるも

のも多様化しています。その欲求に對して、しつかり応えられるかどうかがキーポイントになってきています。お決まりの観光拠点を巡らせるだけでは喜んでもらえませんし、リピーターにもなってくれません。

お客さまを受け入れる側の発想の転換が不可欠です。そこで本年4月、観光協会など既存の団体を發展的に解消し、「一般社団法人佐渡観光交流機構」という新法人を設立しました。観光庁の認可もいただいた、いわゆる佐渡版DMOとなる組織です。農林水産をは



佐渡の伝統芸能「鬼太鼓」

じめ、この島にあるすべての産業や、地域の人々の生活が「観光資源」であると考え、その掘り起こしを担うために商工会やJA、漁業組合などにも加わっていただきました。

この組織の中で重要な役どころを担ってもらうために島外からの人材も起用しました。「外からの目」と「内からの目」、それぞれの視点や感性を連動させながら、新たな発想の中での観光地域づくりを目指していきます。

また、佐渡ならではの能楽・民謡や鬼太鼓といった伝統芸能、郷土芸能も、交流人口拡大に寄与する大きな資源ですが、少子高齢化による人口減が進む中、その継承が喫緊の課題となっています。そこで本年7月に「佐渡文化財団」を設立し、後継者の育成や島内に数多くある寺社仏閣をはじめとする文化財や伝統的建築物の維持・保全も目指すことにしました。

今回新設させていた一般社団法人佐

渡観光交流機構と佐渡文化財団が蜜に連携し合い、昔からさまざまな風習や祭事を継承してきた人々の中に入り込み、一緒になって地域の活性化を目指すことが、そのまま「観光地域づくり」につながるはずです。

プロフィール

- ◆ 面積 855・61km²
- ◆ 人口 5万5965人
- ◆ 世帯数 2万4057世帯

〔将来都市像〕歴史文化が薫り、自然と人が共生できる美しい島

〔まちの特徴〕雄大な島の自然の中で見られる四季折々の表情と豊富な食材が獲れる食と観光の島。また、世界文化遺産登録を目指す佐渡金銀山遺跡と、それによってもたらされ、はぐくまれた文化や芸能。さらに野生下で生息する朱鷺（トキ）が見られるのも島の魅力

〔市町村合併〕平成16年3月1日、両津市、相川町、佐和田町、金井町、新穂村、畑野町、真野町、小木町、羽茂



佐渡市長
三浦基裕

論語の中に、「近説遠来」という言葉があります。「任人が楽しく暮らすまちには、遠くから人が集まってくる」という意味だそうですね。佐渡も、そんな島になれるように全力で取り組みたいと思います。

町、赤泊村が対等合併

〔特産品〕佐渡米、おけさ柿、ブリ、イカ、南蛮エビ、日本酒、無名異焼、裂き織り

〔観光〕佐渡金銀山遺跡群、朱鷺（トキ）、天然杉・山野草トレッキング、棚田（小倉千枚田、岩首・昇電棚田）、尖閣湾、たらい舟

〔イベント〕島全域を活用したスポーツイベント「佐渡トキマラソン」（4月）、スポニチ佐渡ロングライド210（5月）、佐渡オープンウォータースイミング大会（8月）、佐渡国際トライアスロン大会（9月）、佐渡カンゾウ祭り（6月）、アリス・セレブレーション（8月）



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

自然を守り、自然の恵みを生かした 魅力的なまちづくり

溪谷が形作った 特色ある風土

南アルプス市は、山梨県の西側、南アルプス山麓に位置し、3000m級の山々が連なる山岳地域を有する自然に囲まれた緑豊かな地域です。また、南アルプスの山々でははぐくまれた清澄な水と源とした御勅使川によりもたらされた地形は、日本有数の扇状地を形成し、その特徴である「水はけの良い大地」を生かした果樹栽培も盛んです。1年を通して、さまざまな果樹の花が咲き、その収穫までの果樹園の風景は、本市を代表する景色となっています。

首都圏からは、中央自動車道からのアクセスも容易で、北岳や仙丈ヶ岳などの南アルプス山系登山の玄関口として、また、果物狩りなどの果樹観光へ多くの方に訪れていただいています。

自然を知り、守り、はぐくむ心を未来につなぐ

本市の大きな魅力の1つは、崇高な南アルプスの山々が織りなす

雄大な自然環境です。国内標高第2位の北岳、第3位の間ノ岳と本格的な登山から櫛形山、夜叉神峠などのトレッキングまで、全国各地から多くの登山者が訪れます。登山愛好家から愛される南アルプス山脈は、平成26年6月にユネスコエコパーク（生物圏保存地域）に登録され、豊かな生態系が世界に認められています。

ユネスコエコパークは、地域の豊かな生態系や生物多様性を保全し、自然に学ぶとともに文化的にも経済、社会的にも持続可能な発展を目指す取り組みであり、核心地域、緩衝地域、移行地域の3つのゾーンから構成されています。「人と自然をつなぐ」緩衝地域において、このたび、山梨県立南アルプス巨摩自然公園内の伊奈ヶ湖周辺施設（宿泊・研修・バーベ

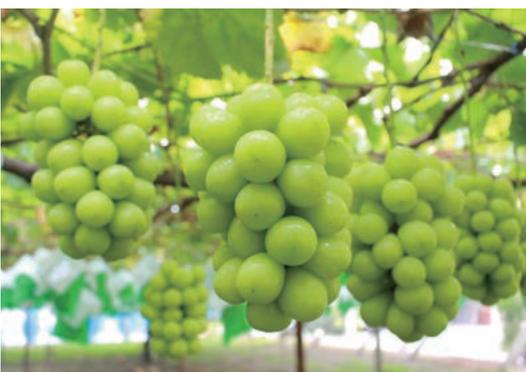
キュー施設）を「エコパ伊奈ヶ湖」として、リニューアルオープンしました。大自然の中で、次世代を担う子どもたち自身の体験を通して、自然を学び、豊かな人間性をはぐくむ、学習環境の場としての活用を考えています。皆さまの来場を自然に包まれた癒しの空間とともにお待ちしています。

南アルプス市の1年は「フルーツパララー」

本市のもう1つの魅力は、四季折々にその旬を迎える果物です。



春の訪れを告げる果樹園の桃の花



南アルプス市ブランドの魅力のひとつ「シャインマスカット」

春から初夏にかけての「さくらんぼ」、夏の「桃」「すもも」、秋の「ぶどう」「柿」に冬の「キウイフルーツ」と1年を通じて実りの季節を迎えます。市内に桃の花が一斉に開花する陽春のころは、その鮮やかな花の姿と甘美な香りに包まれ、まさに「桃源郷」です。

果物狩りも毎年、多くの皆さまにお越しいただいています。近年は、少人数のグループ旅行が主流となり、その地域でしか楽しめる、経験できないことを求める傾向が顕著になっていきます。将来に向けた観光事業は、さまざまな付加価値による「ブランド力」の確立が必要です。世界一重い「すもも」としてギネスに認定された「貴陽」やクリスマスマスの時期までおいしく食べられる「ぶどう」の「シャインマスカット」など、素材の魅力を最大限生かした誘客事業を展開し、今まで培ってきた南アルプスの清流と大地が育てた「南アルプス市ブランド」のさらなるレベルアップを図っていきます。

地域の歴史を知り、語り継ぐプロジェクト

本市には、イギリス大英博物館

など海外博物館からもオファーが届く「鑄物師屋遺跡の円錐形土偶」や宝永5年（1708年）の棟札が発見された茅葺き人母屋造りの安藤家住宅を代表に多くの歴史的価値の高い建築物や美術工芸品、また天然記念物や伝統文化があり、高い評価を受けています。

このような歴史的価値の高い文化財や歴史資源を活用し、まち全体を博物館に見立てた「フィールドミュージアム構想」は、多くの自治体で取り組まれています。本市では、その構想にさらに、地域に潜在する隠れた歴史資源の価値を掘り起こし、その歴史資源から、ふるさとを誇る心の醸成とそこに集う人々をつなぐ「ふるさと○○博物館」掘り起こし・育み・伝えるプロジェクトに取り組んでいます。

本年秋季、「○○博物館」は、オープンします。オープン後もさらに「掘り起こし」「育み」「伝える」3つのステップがもたらす、人が集い地域の魅力が活用される過程を循環させ「南アルプス市らしさを語る歴史資源の創出」や「ふるさとを誇りに思う人材の育成」を進めてまいりたいと考えています。

自然と文化が調和した 幸せ創造都市を目指して

本市は、本年度誕生から15年の節目の年となります。誕生から今日まで、市民とともに市の魅力を創出し、これを磨き上げてきました。今後もユネスコエコパークの

理念を基本に、地域に息づく豊かな自然環境を守り、自然に学ぶとともに経済・社会的にも持続可能な発展に取り組み、「訪れてみたい」「住んでみたい」「住んで良かった」と思える「人と自然をつなぐまちづくり」を市民の皆さまと一緒に進めてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 264・14 km²
- ◆ 人口 7万1890人（6月1日現在）
- ◆ 世帯数 2万7694世帯（6月1日現在）

〔将来都市像〕自然と文化が調和した
幸せ創造都市

〔まちの特徴〕「南アルプス山系の玄関口」となる山岳地域と御勅使川扇状地の特徴を生かした果樹栽培が盛んな地域。中部横断自動車道の「白根」「南アルプス」と2つのICがある

〔市町村合併〕八田村、白根町、菅安村、若草町、櫛形町、甲西町の2村4町の合併により平成15年4月1日に誕生

〔特産品〕さくらんぼ、すもも、桃、



南アルプス市長
金丸一元



ぶどう、梨、りんご、柿、キウイフルーツ、観賞用花卉、甲州鬼面瓦

〔観光〕四季を通じたフルーツ狩り、南アルプス山系（北岳・間ノ岳、仙丈ヶ岳、甲斐駒ヶ岳、鳳凰三山など）への山岳観光、エコパ伊奈ヶ湖、市立美術館、南アルプス菅安山岳館

〔イベント〕南アルプス桃源郷マラソン大会、南アルプス市甲州風上げまつり、アヤマフェア、菅安新緑やまびき祭、南アルプス山麓サマーフェスティバル、かきまつり・まいもん朝市

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

歴史を重ね、未来を育む時代を超えて
愛される住みよい共存の都市 葛城1400年の歴史を
受け継ぐ葛城市

葛城市は、奈良県の北西部に位置し、西は県境を成す金剛山地の山並みと、東に広がる平野部（奈良盆地）で構成されたまちです。市内を近鉄南大阪線、近鉄御所



万葉集にも詠われる「二上山（にじょうざん）」

線、JR和歌山線が通り、7つの駅があります。近鉄線を利用すれば、大阪市へ特急で30分という場所があり、南阪奈道路葛城ICを利用すれば、自動車で関西国際空港まで1時間で到着するという、交通の便に恵まれた立地を備えています。

また、日本最古の官道「竹内街道」が市内を縦断しており、その東端は奈良盆地を東西に縦断する古道「横大路」へとつながり、古来より交通の要衝として栄え、平成29年度には、この「竹内街道・横大路」が1400年の歴史の移り変わりを周辺の歴史遺産を通じて感じさせるとして、日本遺産に認定されました。

葛城市の将来のために

日本中の自治体の重要課題と

なっている人口減少。平成16年10月の合併により誕生した本市は、市制施行以来、奈良県内でも数少ない人口が増加し続けている自治体ですが、最近公表された2045年における人口予想では、減少率は低いものの、本市の人口は減少しているという結果でした。

しかしながら、恵まれた立地条件、古来より連続と受け継がれた数々の歴史遺産、先人が守り伝えてきた自然環境、これらを活用した住みよいまちづくりを行うことで、本市はその予想を覆し、人口の増加を今後も続けていけると考えております。

そのための重点施策として、特急停車駅であります近鉄尺土駅前・周辺整備事業が現在進行中であり、駅へ通ずる道路整備を

はじめとして、駅前広場の設置、立体横断施設の拡充を行い、駅利用者を含め市民の皆さまの円滑な移動と安全を確保するとともに、整備事業と並行して、駅前にホテルを誘致し、大阪市内から奈良市・京都市へ、または奈良市・京都市から大阪市内へ移動するその中継点として、また市内の竹内街道をはじめとした歴史遺産の観光のために、県内外のみならず海外からの来訪者の観光拠点となるよう、に基盤整備を行います。

そして、ホテルをランドマークと位置付け、商店やサービス業など、さまざまな都市機能を駅前および周辺地域に集約・誘致し、市民や来訪者の利便性を向上させ、コンパクトシティを形成することで、子どもから高齢者まで、すべての市民にとって住みよいまちを目指してまいります。

また、ゆくゆくは尺土駅を中心とした地域を、奈良県北西部の生活の中心地へと成長させ、本市周辺の自治体から恒常的に人が訪れ

る、または、転入してくるような魅力あるまちへと発展させてまいります。

次代を担う子どもたちのために

そのためにも、ハード面だけではなくソフト面での施策の拡充も推進してまいります。

本市に限らず日本全国に当てはまることですが、現代社会では子育てに関する悩み、不登校、ニート、ひきこもりなど、さまざまな問題を抱える家庭が少なくありません。しかしながら、従前の行政機構ではその問題ごとに相談窓口が異なり、支援を必要としている



1000年以上の歴史を誇る「當麻寺」

市民に不便を強いていました。また、担当同事の情報共有もままならず、長期にわたったのサポートが困難でした。

そこで本市は、平成21年に制定された、子ども・若者育成支援推進法に基づき、社会生活を営む上でさまざまな問題を抱える市民に対して支援を行うための「葛城市子ども・若者支援地域協議会」を設置しました。協議会は、市の関係窓口はもちろんのこと、小中学校、県の保健所、職業安定所、所管警察署などの26の関係部署で構成され、妊娠期における母親やその家庭へのサポートから、乳幼児期における子育ての悩み、小中学校時の不登校、中学校卒業後からおおむね40歳までの不労不学者（ニート・ひきこもり）までの長い期間の支援のため、関係部署間での情報共有、支援方針の統一・確認などを行い、各段階における「切れ目」のない支援体制を構築しています。

そして、支援を必要としている市民の方が訪れるワンストップ総合窓口として、「こども・若者サポートセンター」を開設し、センターには臨床心理士、保健師、保

育士、社会福祉士、教員経験者などの専門職を配置し、さまざまな相談内容に即座に対応できるようにしています。

次代を担う子どもたちが健やかに成長し、本市が市制20周年、30周年、それ以降へと後の世代にバトンを引き継いでいけるよう、市民の皆さまから愛されるまちづくりを実現してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 33・72km²
- ◆ 人口 3万7336人
- ◆ 世帯数 1万4535世帯

〔将来都市像〕歴史を重ね、未来を育む時代を超えて愛される住みよい共存の都市(まち) 葛城

〔まちの特徴〕先人から受け継いだ豊かな自然と歴史遺産が残る交通アクセスに恵まれたまち

〔市町村合併〕平成16年10月1日 新庄町・當麻町の対等合併



葛城市長
阿古和彦



〔特産品〕二輪菊、秋なす、ねぎ、いちじく

〔観光〕當麻寺(国宝8点)、柿本神社(飛鳥時代の歌人、柿本人麻呂に縁のある神社)、竹内街道(日本最古の官道として日本遺産に認定)、相撲館(相撲をテーマとした博物館)、二上山(万葉集にも詠われる山)

〔イベント〕當麻寺聖衆来迎練供養会式(當麻のお練り)、二上山岳のぼり、屋敷山公園まつり、ゆめフェスタin葛城



本場所同サイズの土俵がある「相撲館」

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

台風災害からの復旧・復興に向けて
笑顔と活力あふれる定住拠点豊かな資源と自然に
抱かれたまち

セメントとみかんと野球のまち津久見市は、戦国キリシタン大名大友宗麟が終焉した地で、450年以上の歴史ある扇子踊りを代表する伝統文化や伝統芸能も大切に継承されています。



「つくみイルカ島」で県内初の繁殖例となるバンドウイルカの赤ちゃん「つばさ」

本市は、日本最大の生産量を誇る石灰石資源があり、それを原料とするセメント製造業を中心に発展してきました。豊後水道に面した温暖な気候により栽培された「津久見みかん」は、

多くの人に愛されています。遠洋

マグロ漁の基地として栄えた保戸島は、「未来に残したい漁業

漁村の歴史文化財産百選」に選ばれています。また、イルカと人間の「ふれあい・癒し」をテーマにした「つみたま体験パーク」つくみイルカ島」や2億4000万年前のチャート（珪石）の地層から

「宇宙塵」が発見された「網代島」、平成16年の台風災害からの復興を祈念して地元住民が植樹した約5000本の「四浦半島の河津桜」など津久見ならではの多彩な魅力があふれています。

平成29年台風第18号災害

平成29年9月17日に九州南部から接近した台風第18号は、約10時間524mmという豪雨により、市内全域に甚大な被害をもたらした。



宇宙塵が発見された網代島（奥）、災害ごみが分別される集積場

ました。市内を流れる津久見川・徳浦川などの氾濫や山からの土石流などで、2000棟近い建物が被害を受け、急傾斜の段々畑や山々は崩落し、道路は至る所で寸断され、多くの集落が孤立状態になりました。

このような状況の中、これまでタイムラインの考えを取り入れ、機会あるごとに、早め早めの避難や垂直避難を呼び掛けた結果、市民が冷静に行動したことで、幸いにも、尊い命は失われませんでした。

浸水被害を受けた地域では、家財道具の搬出や土砂・汚泥の排出に困難を極めました。が、県内外から駆けつけてくださった約7000人のボランティアのご協力により比較的早く回復することができました。また、全国の多くの方からお見舞いや激励をいただき、この場をお借りして心より厚くお礼申し上げます。

しかしながら、山積みになった家財などとともに、ガレキ交じりの汚泥などの1日も早い撤去、処理が求められました。

本市では、平成28年熊本地震の被災地復興支援として、震災ガレキをセメント工場で受け入れてきました。また、平成28年12月に「循環型社会の形成の推進に関する協定書」を大分県、太平洋セメント



四浦半島の河津桜と保戸島

(株)と本市の3者で締結してまいりました。そのため、発災直後から、この協定に基づき災害廃棄物の資源化処理について協議を始めました。集積場を確保し、二次集積場レイアウトや処理手順を定め、早期に処理を開始しました。発災後5カ月の平成30年2月上旬には、災害廃棄物約1万4700tの資源化処理をすべて終了することができ、最終処分場の延命化を図ることができました。

地域の活力を取り戻す 「復興元年」の取り組み

本市では、被災前にも増して元気な津久見を取り戻すため、平成30年度を「復興元年」と位置付け、復旧・復興計画を策定し、「ハード」「ソフト」「活力」の3つを基本に、復興に取り組むことにしています。

ハード対策としては、津久見川の河川激

甚災害対策特別緊急事業とともに、道路、河川、橋梁、農業用施設、漁港などの膨大な災害復旧工事を本格化させています。

ソフト対策としては、行政区単位に組織されている自主防災会と地区社協などの連携を強化し、集落単位の防災力の強化を進めています。地区社協では、区役員、民生・児童委員、介護予防推進員などが連携して、①話し合い、②見守り・声掛け、③つながりづくりの3つの柱を中心に、要配慮者などの調査を行い、住民台帳を整備するなど、日ごろから見守り活動を行っていきます。平時からの地域づくりと新たな防災技術を組み合わせ、命を守る取り組みを推進しています。

活力の対策としては、中心部の活性化検討委員会を設置し、観光戦略と連動した取り組みを進めています。また、今秋、「第33回国民文化祭・おおいた2018」第18回全国障害者芸術・文化祭」が大分県で開催されます。本市では、数億年のプレート移動により隆起した石灰石や珪石、宇宙塵を生かした、『地球の歴史と繋がる宇宙ロマン』津久見』をテーマに、「合唱

の祭典 in 津久見」や「津久見フレスコ画・障がい者アート作品展」などの開催を予定しています。

また、(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団が実施するJAXAとJAMSTEC初の共同企画展と連携した取り組みを進めるとともに、扇子踊りなどの郷土芸能やモイカ、マグロなど津久見ら

プロフィール

- ◆ 面積 79.48 km²
- ◆ 人口 1万7889人
- ◆ 世帯数 8283世帯

〔将来都市像〕誇りと自信に満ちたまち「津久見」〜笑顔と活力あふれる定住拠点

〔まちの特徴〕リアス海岸という自然豊かな景観、日本一の生産量を誇る石灰石鉱山とセメント産業、甲子園春夏2度の全国制覇を果した津久見高等学校

〔特産品〕津久見産養殖本まぐろ、宗麟ひらめ、津あじ、津さば、ブリ、モ



津久見市長
川野幸男



しき、魅力を大いに発信していきます。

本市にとって台風災害からの復旧・復興は大きな困難ですが、ハード、ソフト、活力を基本に市民とともに乗り越え、総合計画の「誇りと自信に満ちたまち『津久見』〜笑顔と活力あふれる定住拠点」づくりを進めていきます。

イカ(アオリイカ)、津久見みかん、津久見山椒、ぎよろっけ

〔観光〕日豊海岸国定公園の絶景(保戸島、無垢島)、つくみイルカ島、四浦半島の河津桜、青江ダムの桜、大友宗麟公墓

〔イベント〕つくみ港まつり納涼花火大会(7月)、津久見ひゅうが井キャンペーン(7〜9月)、津久見扇子踊り大会(8月)、ふるさと振興祭(10月)、津久見モイカフェスタ(10〜1月)

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。